

「抱え上げないケア」の普及のために

～ 相談・研修機関の立場から～

北九州市立介護実習・普及センター
（福祉用具プラザ北九州）

作業療法士・福祉用具プランナー
ノーリフトケアコーディネーター

櫻木美穂子

北九州市立介護実習・普及センター (福祉用具プラザ北九州) のご紹介

北九州市総合保健福祉センター



ここにプラザがあります



北九州市総合保健福祉センター (アシスト21)
北九州市小倉北区馬借一丁目7番1号



設置目的：介護に関する知識及び技術並びに介護機器の普及を図ることにより、市民の高齢者福祉に対する理解及び参加の促進に資するため。

沿革：

平成11年10月1日 **北九州市保健福祉局障害福祉センター**の展示相談係

(**テクノエイドセンター**)として設立

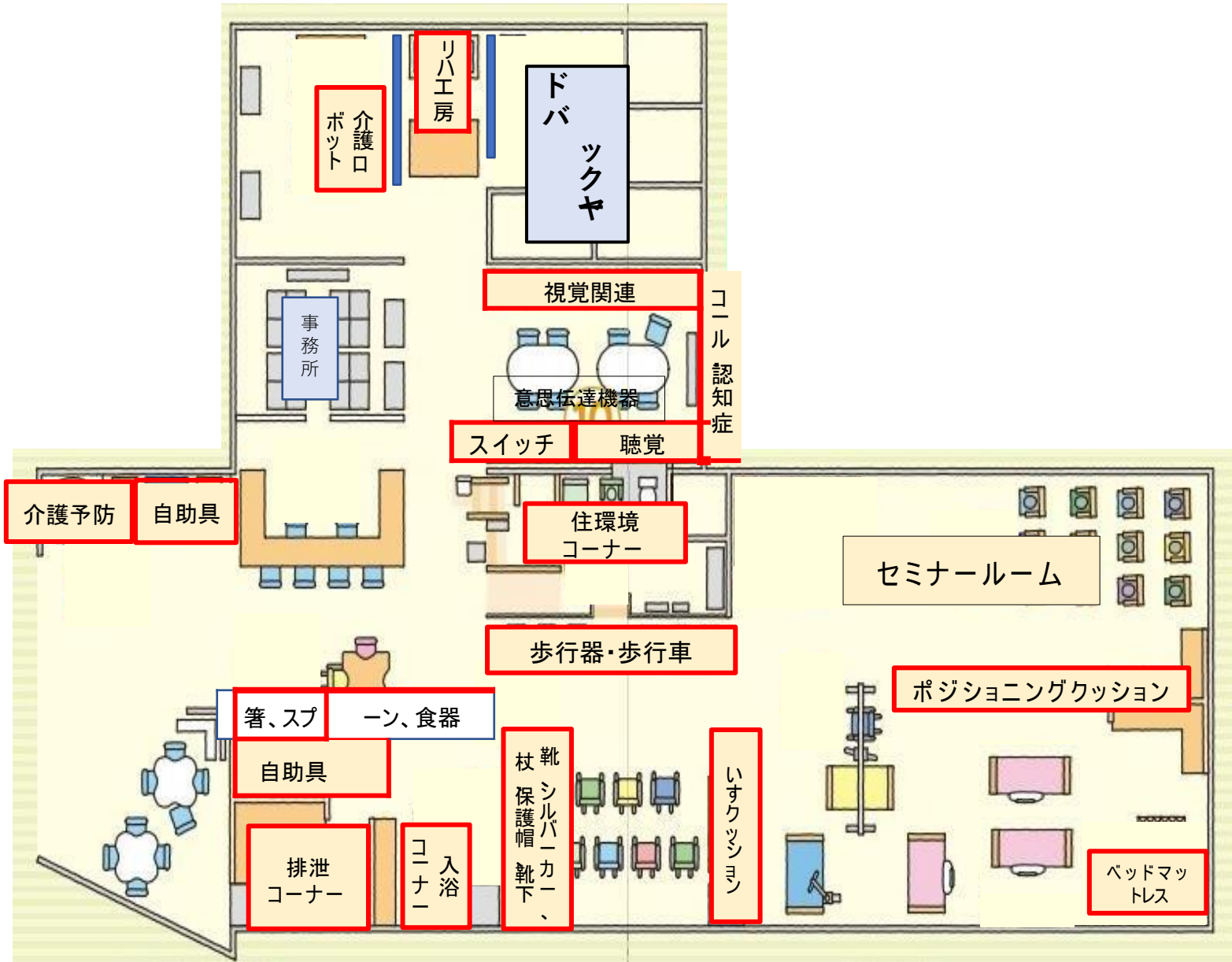
北九州市の更生相談所

(福岡県は政令指定都市の福岡市と北九州市が市立で設置しており、福岡県と県のサテライト計4か所がある)

平成17年4月1日 通称名を「福祉用具プラザ北九州」と改称した

令和3年度より 介護ロボット開発・普及支援窓口を併設（運営は別会社）

福祉用具プラザ北九州平面図



福祉用具プラザ北九州



北九州市立介護実習・普及センター
福祉用具プラザ北九州
開館時間
9:00~17:30
休館日
土曜日、祝日、年末年始
福祉用具や介護についての
ご相談にお応えします。
(※販売・レンタルは行っておりません)
2月の 4(土) 11(土) 18(土)
休館日 23(木) 25(土)
ご自由にお入りください

喫茶「やすらぎ」 感染対策実施 営業中!!
ランチメニュー 550円
その他メニュー 400円~
人気です 110円ドリンク 種類はいろいろ
【営業時間】
平日... 9:00~16:00
日曜... 9:00~15:00
定休日 土曜・祝日

★ ★ ★ LUNCH MENU ★ ★ ★
550円
パスタ (ナポリタン・たらこ)
カレーライス
ハヤシライス
焼きそば
ピザトースト
チャーハン
DRINK
・コーヒー ・コーラ
・オレンジジュース
・アッスルジュース
まじはサラダ

準備中
Closed

施設運営状況

数字は令和3年度の実績。()内は令和元年の件数

- 福祉用具の展示数 約1200点
移動関連・自助具・排泄・入浴・意思伝達機器・ベッド関連など
- 来館者： 令和3年度年間 約5,350人 (約12,500人)
- 相談件数： 約2,150件 (約3,350人)
- 介護講座： 約70回/約500人 (約90回/約1300人)
①一般市民対象 ②専門職対象 ③リクエスト講座 (一般・学生等)



相談対応

リハビリ専門職 3 名
介護福祉士 3 名が対応

福祉用具の選定や適合、介護に関する相談など多種多様

- 来館者：約 5, 3 5 0 人（約 1 2, 5 0 0 人）
- 相談：約 1, 3 0 0 人（約 2, 4 0 0 人）
- その他（電話・メール等）：約 5 7 0 件（約 7 2 0 人）
- 福祉用具の適合のための**試用貸出**：
 - 医療・介護の専門職対象 約 6 4 0 点（約 1, 0
 - 貸出の多いもの：1 位一靴・シルバーカーなどの移動関連、
 - 2 位一シャワーチェアなどの入浴関連、
 - 3 位一意思伝達機器関連、



数字は令和 3 年度の実績。 () 内は令和元年の件数

来館者 相談支援

福祉用具と介護に関する相談対応

福祉用具の適合支援

「見て、触って、体験する」

「実際に試すことが出来る」ため
ケアマネジャーや相談員、病院からの紹介で来館する方が多数

相談の多い福祉用具：

- ・ 自助具（箸、食器などの食事関連）
- ・ 移動関連（靴・歩行車・車椅子・クッションなど）
- ・ 排泄関連（おむつ・尿取りパッド・頻尿など）



介護講座 一般市民対象

数字は令和3年度の実績。()内は令和元年の件数

福祉用具・介護に関する基礎講座：福祉用具の使い方と負担の少ない介護の普及

- 一般市民向け一年間15回開催 4割程度は専門職
- 見学（福祉用具講座）：
一般市民や地域団体からのリクエスト 6回（20回以上）
- 自助具作成ワークショップ：6回開催 定員5名（10名）
作業療法士が対応
- 出前講座：一般市民向け



介護講座

ワークショップ

介護講座 専門職対象

医療・介護の専門職のための介護講座

- 回数：年間22回開催

- 対象：医療・介護の専門職

コロナ前は実技研修中心、

コロナ後は定員を縮小し開催中

希望者には動画配信による受講も！

福祉用具の使い方と抱え
上げない介護方法の普及
を含む



訪問支援

数字は令和3年度の実績。

北九州市内在住の市民対象に福祉用具や介護に関する相談に対応

- 訪問先：自宅・高齢者施設・障害者施設・病院など
- 訪問回数： 約260回（R3年度と変わらず）複数回訪問もあり
- **個別訪問：** 対象者 74人
 - 福祉用具等の適合支援・評価 104件
 - 福祉用具の改良・自助具製作 15件
 - （一人で複数の相談がある方があるため）
- **施設訪問：** 8件（高齢者施設・障害者施設・病院等）
 - 内容：福祉用具の使い方・負担の少ない介助方法などをスタッフへ実技指導を行う



訪問支援 個別

- 個別訪問による福祉用具の適合と介護に関する支援：

約 104 件 訪問回数 200 回

- 福祉用具の製作・改良：

15 件 訪問回数 35 回

- 初回相談者：

1番一介護支援専門員、2番一障害者相談支援員
家族・本人、介護・看護職、リハビリテーション専門職
行政のリハビリテーション専門職



重度意思伝達装置や補装具の判定に
関連する用具の適合など

訪問支援 個別 適合支援

- 相談内容：1 番－ポジショニングを含めた姿勢保持
2 番－意思伝達機器関連
- 対象疾患：1 番－高齢者・認知症等
2 番－脳性まひ
3 番－神経・筋疾患

補装具の判定に関係した
適合支援を含む

• 展示場から適合のために持ち出した福祉用具：100点

- 1 番－意思伝達関連機器
- 2 番－ポジショニングクッション類
- 3 番－自助具（MOMO、PSB）

プラザにない製品は福祉
用具の事業所やメーカー
の協力を依頼することも

訪問支援 個別 製作・改良

市販の福祉用具が合わない、市販品にないなどの場合、
相談に応じ作成する

製作：自助具（10件）

- ・食事・更衣・整容・仕事など多種多様。

姿勢保持関連（4件）

- ・背もたれや座面にウレタンを使ったクッションなどを作製。



訪問支援 施設支援

福祉用具や介護に関する技術講座を施設のニーズに合わせて開催

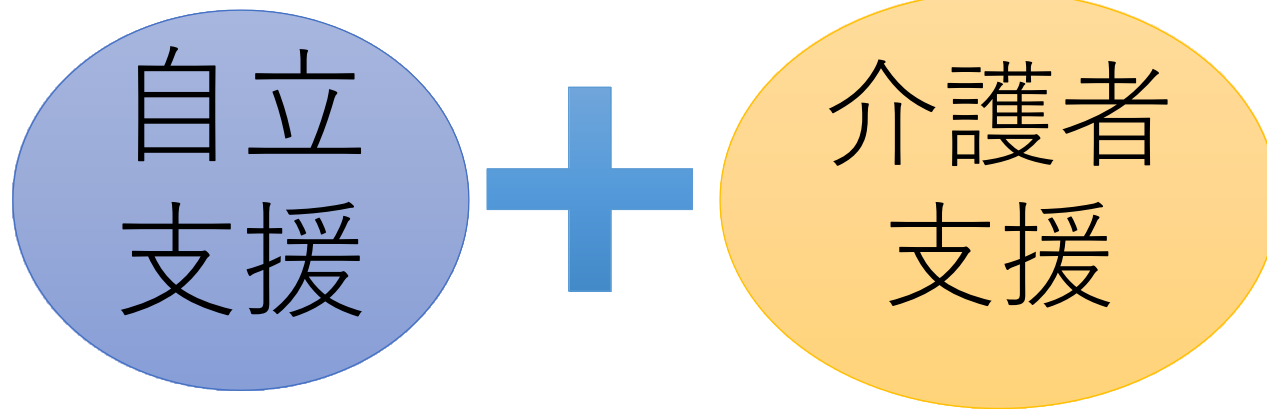
目的

- 福祉用具を適合した後、きちんと使われているかが不安。
- 基本的なケアと福祉用具の使い方を伝えることで導入した福祉用具の適切な活用を促す。
- 適合のポイント、使い方のポイントをスタッフが知ることで、他の利用者へも汎化できるようになる。

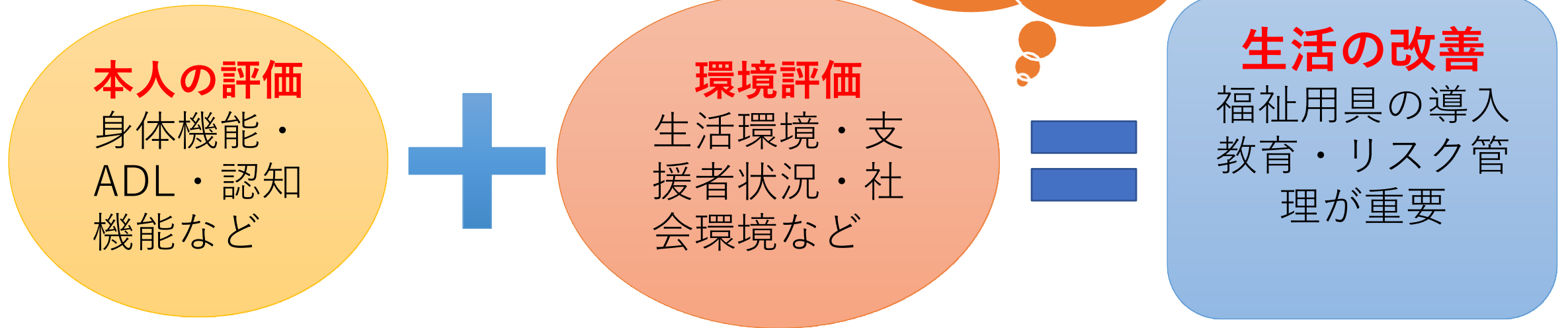


福祉用具の役割

- 当事者の出来ないを出来るように補助する → **自立支援**
- 介護者の身体的負担を軽くし、 → **介護者支援**
- 当事者の二次障害のリスクを減らす



福祉用具の適合



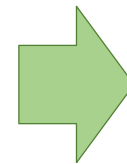
- ・スポットでしか関われないので、その方に関わる専門職と情報共有し、スムーズな導入を謀る
- ・無理せず持続可能で、安全なものか
- ・本人や家族の意向に沿ったものか
- ・複数の提案や、今必要なくても有用なものであれば情報提供する

抱え上げない介護（ノーリフティングケア）とは

- 介護される側・する側双方において安全で安心な抱え上げない・持ち上げない・引きずらないケアをノーリフティングケアと呼ぶ
- 安全で安心な看護・介護を提供するには、身体の間違った使い方を無くし、対象者の状態に合わせて福祉用具を有効に活用し取り組むことが必要
- 福祉用具を使うことが目的ではなく、双方の健康的な生活を保障できるケアを実践することが目的



- 介護者の腰痛・怪我の予防
- 利用者の自立支援と二次障害の予防



双方の健康的な
生活の保障

抱え上げのケアと不良姿勢のリスク

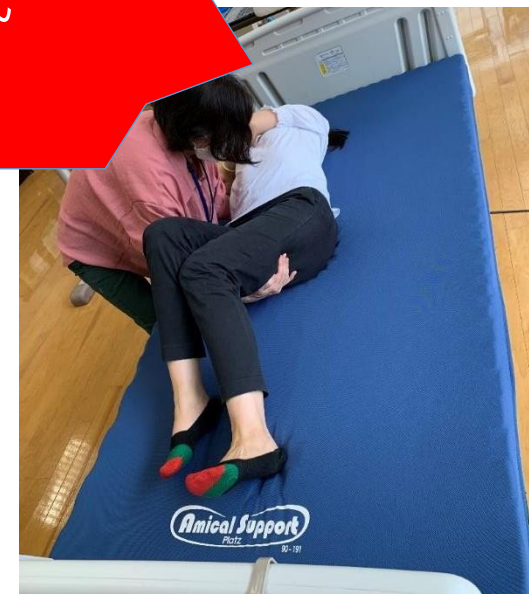
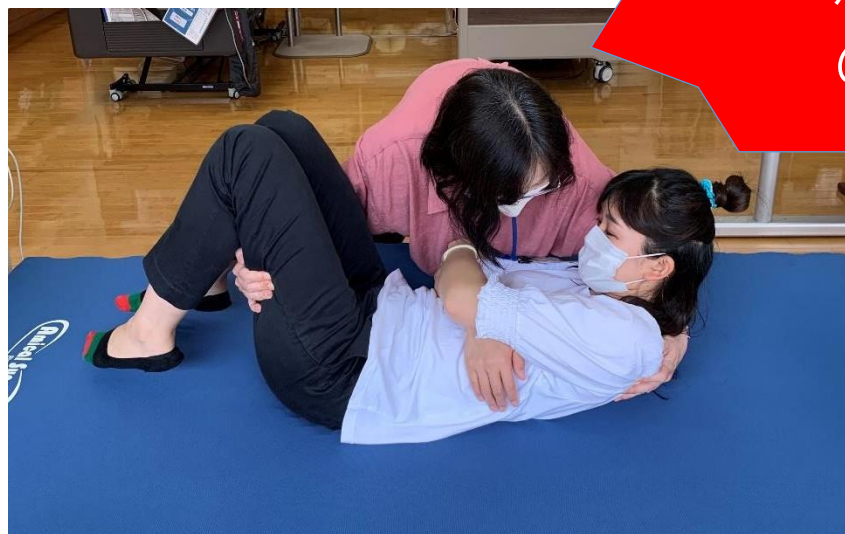
骨折・内出[👑]など

座れなくなる



介護者の腰痛・怪我のリスク

立てなくなる



抱え上げなどの力任せのケアを行うことで



介助者に及ぼす影響

目先の効率を優先した力任せの介助の継続で腰痛を発生させる



腰痛で休職者や離職者が増えることで他のスタッフに業務負担が増え悪循環を引き起こす



力仕事・腰痛を起こす仕事というイメージの悪さから人材確保が困難な社会的現象を生む

対象者に及ぼす影響

目先の効率を優先した力任せの介助の継続で自立を阻み二次障害を発生させる



健康的な生活を保障するはずの医療・福祉の現場で間違った介助で重度化を引き起こす



重度化による現場のケアの困難さと医療・福祉費用の増大を招くなど社会的問題を生む

人材不足は結果的に対象者に向けてのケアの質の低下も引き起こす

抱え上げない介護（ノーリフティングケア）

- ・障害が重度の方に行うケア限定ではない
- ・リフトなどの福祉用具を使うケア限定ではない
- ・ケア限定ではなく、**すべての作業**におけるもの
- ・取り組みそのもの

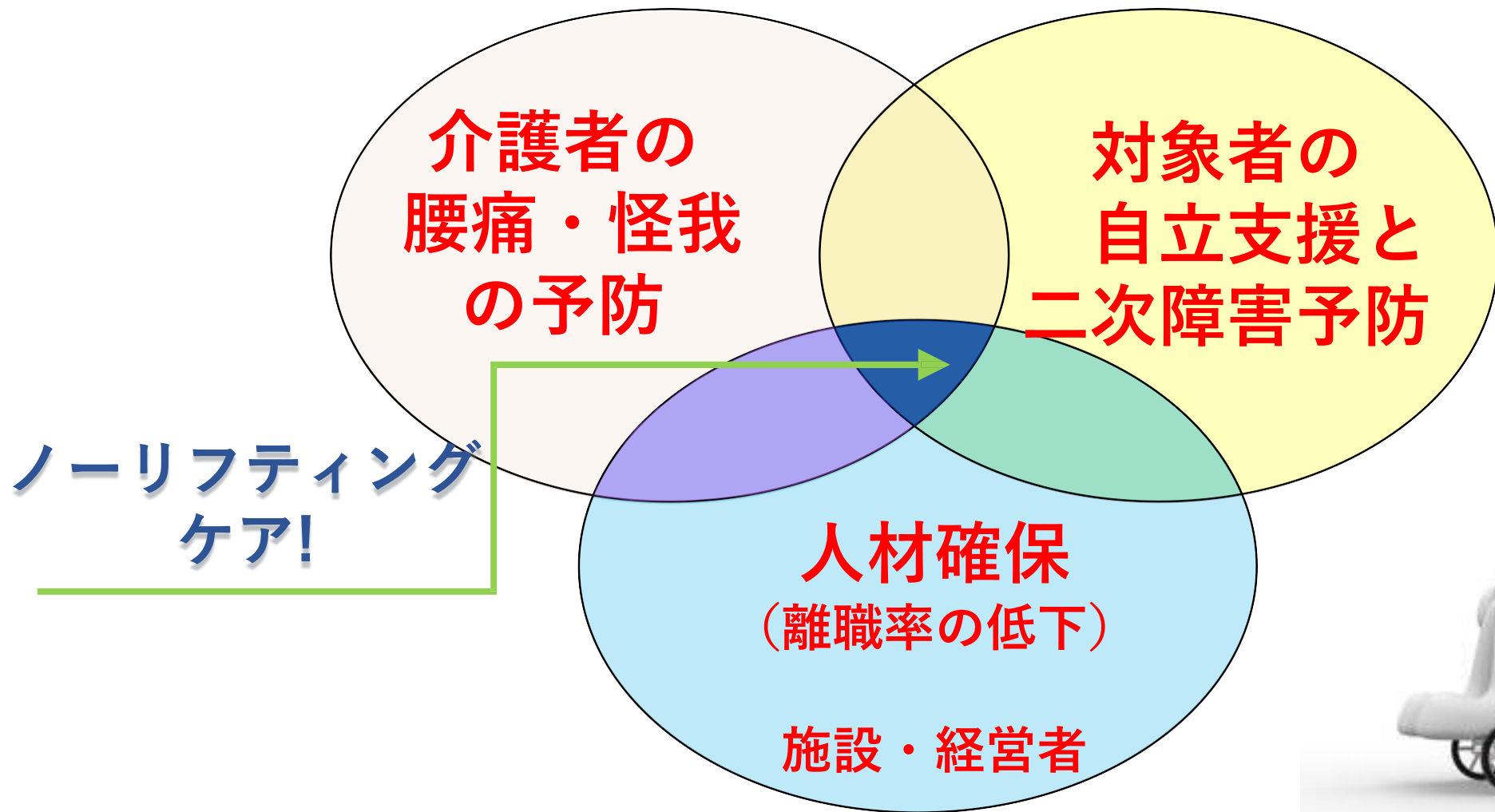


ノーリフティング ≠ 介護技術・テクニック
= 腰痛をなくす取り組みそのもの

**組織のリスクマネジメント
体制を整えることが必須**

「自分の身を守るもの」であり、
「一緒に働く仲間を守るもの」

抱え上げない介護は介護を行う一つの手段であり
介護者と利用者を守るための手段である



抱え上げない介護の普及

以前

- ・有名な講師を招聘して研修会の開催
- ・相談対応の中で必要性を伝える
- ・福祉用具の研修で使い方を伝える

なかなか広まらない

「なちゅは福岡」
立ち上げ
頑張っている人を
支えるため
人材育成

- ① 一人でやってもほかの人はしないので浮いている
- ② 時間がかかるためしなくなる
- ③ そもそも福祉用具がない
- ④ 頑張っている職員が疲弊していく など

抱え上げない介護の普及

- 介護施設にお願いし普及チームを作ってやってみる
- 組織が動き出すとやらなければならない
- 並行して必要な福祉用具の購入
- 負担が減るので元の介護には戻れなくなる
- 利用者が変わる

わかったこと

- ① 施設長・管理者が動かないと難しい
- ② チームを作って計画的に取り組む必要がある
- ③ チームメンバーの選定が大事
- ④ 必要な福祉用具は用意する

令和2年度から「福岡県
ノーリフティングケア普
及促進事業」開始

今年度までに36の普及
モデル施設育成中


(委託運営：NPO福祉用
具ネット)

施設長・管理者が宣言する

腰痛予防対策チームを作る

業務中に活動できる体制を作る

チームに権限を与える（施設長のお墨付き）

A red starburst graphic with multiple points, containing white text.

施設長・
管理者研
修が大事

腰痛予防対策の実施チーム

腰痛予防対策推進チーム

- ① 統括マネージャー
- ② 職員の健康管理担当
- ③ 教育担当
- ④ 個別ケアプランニング担当
- ⑤ 環境調整、福祉用具導入・管理担当



腰痛予防対策チームの役割

腰痛予防対策チームは、安全衛生委員会と連携して、施設の腰痛予防対策の立案やその実施に取り組む。具体的には、**リスクアセスメントの実施、リスク低減策の立案とその評価、福祉用具の使用に関する研修の企画と実施**、など、職員に対する腰痛予防に関連した事項の指導や支援にあたる。

リスクマネジメントの手順

1. 目的の共有

チーム・スタッフ全員で共有する

2. 目標設定

1年後、6か月後、3か月後の目標を決定する

3. 現状把握

チームで今の職場環境を把握する

4. 課題抽出

出てきた課題を4本の柱に振り分ける

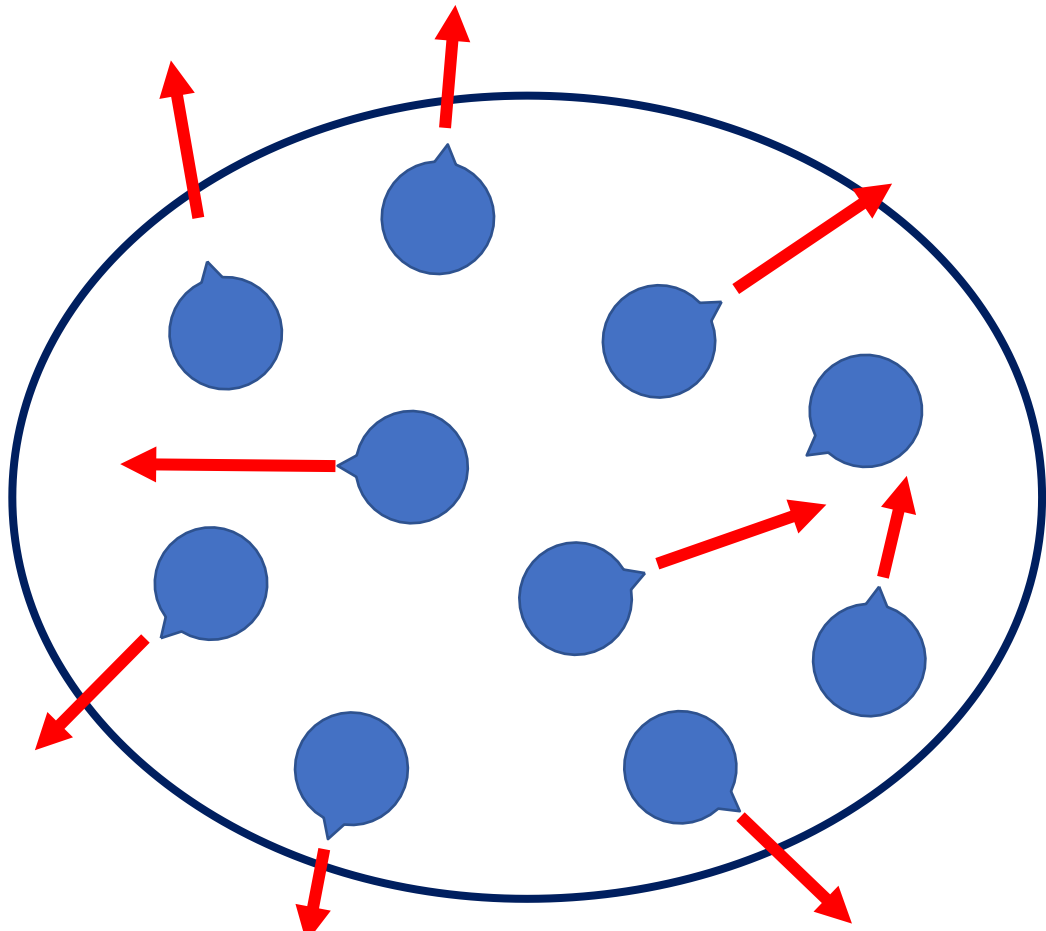
5. 計画立案

目標に対し具体的計画を立案する。 (5W1H)

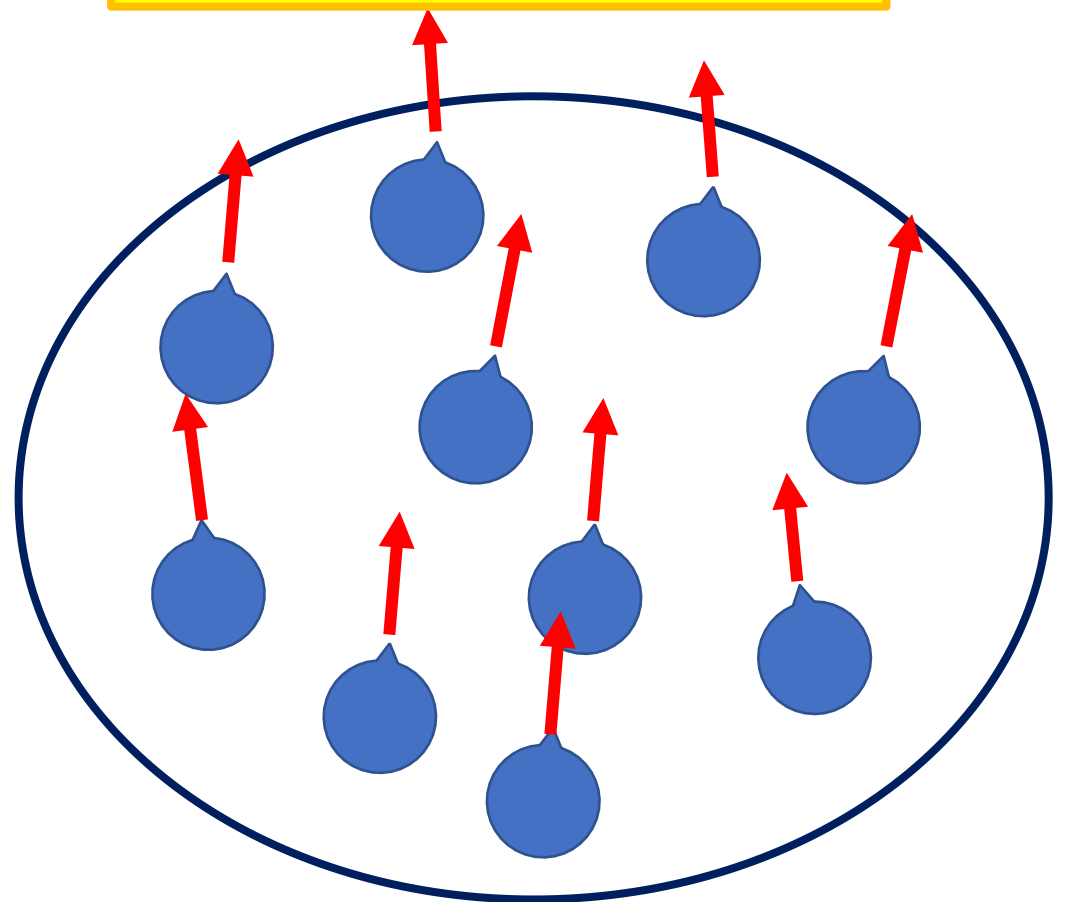


目的の共有

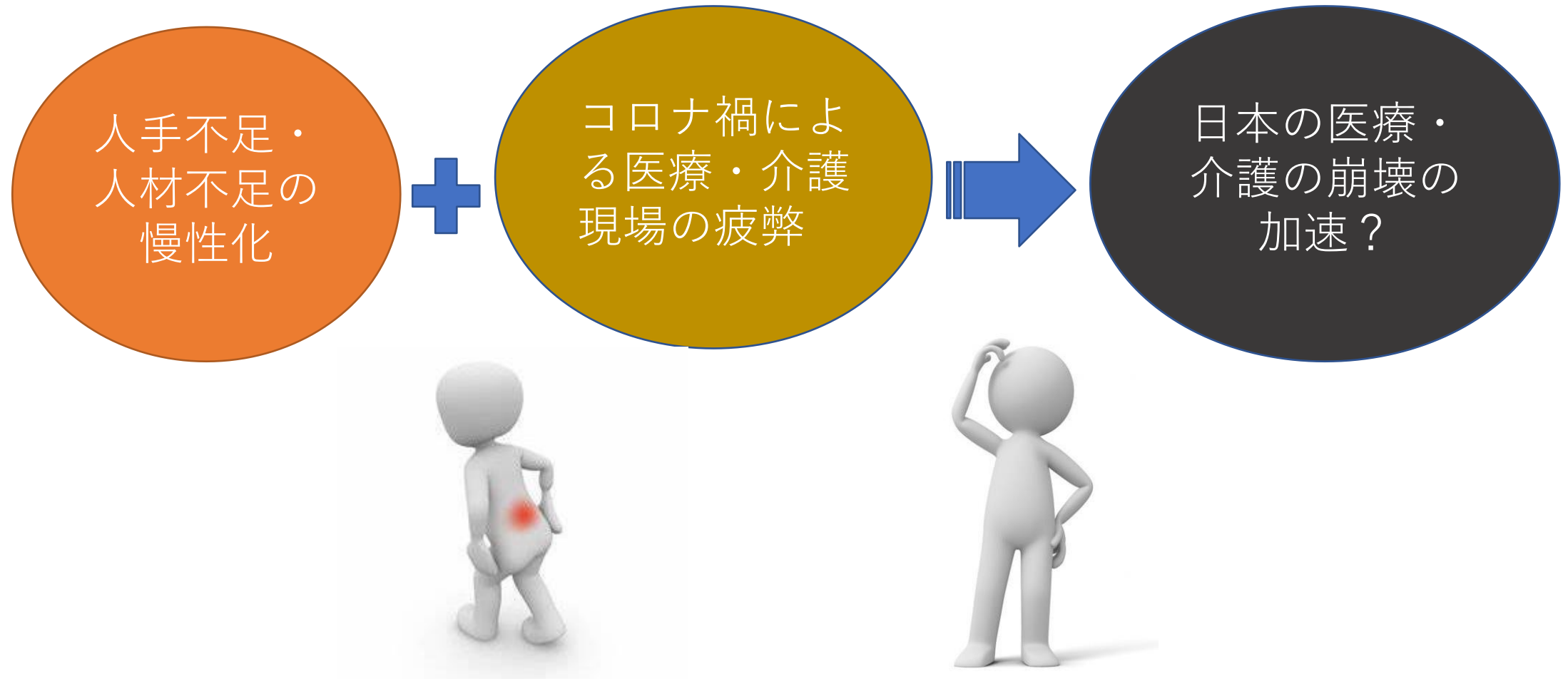
ノーリフティングケア



ノーリフティングケア



今の医療・介護現場



福祉用具



適合支援
専門職
リハビリ

介護予防
自立支援
自助

共助

公助

病院から在宅へ
施設から地域へ

多職種連携

テーマから探す

目的から探す

組織から探す

Google 提供

[トップページ](#) > [健康・福祉・子育て](#) > [介護・高齢者福祉](#) > [介護職員・介護支援専門員](#) > 福岡県ノーリフ

福岡県ノーリフティンニングケア普及促進事業

更新日:2023年2月7日更新



ノーリフティンニングケアとは、

持ち上げ・抱え上げ・引きずりなどのケアを廃止し、リフト等の福祉用具を積極的に使用するとともに、職員の身体に負担のかかる作業を見直すものです。

ノーリフティンニングケアにより、腰痛の減少のみならず、介護の質の向上や業務改善などの効果が挙げ

www.pref.fukuoka.lg.jp/life/3/25/

福岡県ノーリフティンニングケア 普及促進事業

高知県ノーリフティンニングケア

合同会社ナレッジソース
ノーリフティンニングケア
マネジメントマニュアル





ご清聴ありがとうございました